

岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会

岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会（令和6年度第2回）

日時：令和7年3月18日（火）9:30～12:40

場所：倉敷青陵高等学校 図書館

9名参加（欠席者無し）

1 開会

2 報告・協議

（1）令和7年度の合同研修会について

●全3回の時間割（イメージ）（資料1）

- ・初任者も研修Bを受講可能、かつ、初任研担当者も研修Bを受講できる時間割にする。
- ・研修班としては、第2回の初任研の内容は、文化祭・除籍・展示を考えている。県立図書館には展示についてのお話を依頼したい。県立図書館職員が学校に来て展示をしてくれるという話もしてもらいたい。→双方が相談しながら一緒に初任研を作っていく。
- ・7月の第2回合同研修会（合同連絡）での県立図書館からのお知らせ：システム更新のため借用依頼方法等が変更になるので、概要を知らせるとのこと。ほかの連絡と合わせて15分くらい。
- ・第3回合同研修会の時期に、より詳しい説明会を予定している。2時間程度は必要か。
→市立学校対象でないことと、2時間という時間が必要となることから、合同研修会で実施するのではなく、県立図書館主催で別日程にてオンライン等も考慮して開催する方向で調整する。

●第1回合同研修会全体について

- ・派遣依頼文書に「初任者研修担当者・参加者は10:00～（受付9:30～）」と明記する。
- ・文書作成者は、県立図書館が関わるのが分かるように案を作成し、調整する。
- ・R8年度研修について、各支部司書部会の意見をもとに原案を出し、意見をもらう。（資料2）
- ・4月の合同研修会にて、R8年度の研修会案を提示、意見をもらう（アンケートを取る）。
- ・案の内容は、2～3月にもらった皆さんの意見を反映したものであることを知らせる。事前に、各支部の意見の結果をあらかじめMLに流しておく。→支部幹事が行う。
- ・案の骨子は、①合同研修を年2回とする ②初任研を年1回とする。このことで、合同の会場校選びや会場校の負担を軽減する。また、初任研担当者が研修を受けられないことがないようにする。また希望が多い「支部研修を多くしてほしい」の声に応える。ただし、初任研を2回希望する声もあるので、慎重に検討する。
- ・初任研を年1回とする準備として、その後のフォロー体制の充実を図る。サポート校のchatのほか、初任研のこれまでの資料を司書部会HPに鍵付きでアップする。1年間様子を見て、R8年度どうするかを検討する。 ※HPのどこに格納するか、格納庫全体に鍵をかけられるか等を検討する。
- ・初任者からは「Q&A」が欲しいという声がある。作成して、初任研資料と同じ場所に格納できるとよい。ただ、作成者や運用の担当がどの班になるのか等の検討は必要。上記とあわせて、少しずつ進めていく。

●研修A/B

- ・初任者は、第2回・第3回では研修Bも受講可能とする（見学のみも可）。
- ・研修の一部を県立図書館に依頼する場合、内容は県立図書館と研修班とで協議して決定する。
- ・研修の振り返り（還元）について
- ・来年度の研修の形を考慮し2023年度に作成した「研修会開催マニュアル」（研修A/B）を見直し更新する。

【研修 A（初任研）】

- ・研修前に「初任研資料」と「LibMax、LibFinder 説明資料」（いずれも動画）を司書部会 HP 内にアップ（鍵付き）する。事前に視聴してもらっておく。当日は、それについての質問に回答する。システムに関してはシステム班が回答する。また、事前に質問できるフォームを作成する？ 説明資料はこれまでに作成したものを元にして準備する。
- ・県立図書館からの説明内容
搬送便を初めて使う人への説明をするので、使ったことがある人はその部分は不要。この部分を最初にすれば、開始時間を人によって変えることもできる。→これも含めて、初任研の時間のうちの時間帯で県立図書館からの説明を入れるかは、研修班と県立図書館で相談して決定する。

【研修 B（経年研）】

- ・第 2 回では講師を招いた研修を行う。講師については慎重に全体に諮る。各校は持ち帰って実践、第 3 回では、取り組みを持ち寄るという方向で考えている。
- ・班員は、半数は交代しながら、多くの司書が研修企画を経験するようにしたい。R 8 年度は 2 人交代。この形をネット研、研修企画班で引き継いでほしい。→ほかの役割分担もあり、確約はできない。経験者を少なくとも 1 人残すことはしていく。
- ・「司書部会ドライブ」の運用について要検討。（HP 起ち上げ担当者問い合わせたところ、HP の元データなどが入っているので、あまり多くの方が触るのは心配。慎重に取り扱ってほしいとのこと。要検討。） 初任研 chat も、ここへ作る予定。アカウント整理も必要。システム班にお願いする（整理は来年度から、少しずつ構わない。無理のないよう進める。）。
- ・連絡文書「研修 A（B）に参加されるかたへ」は、2 カ月前に準備する（1 カ月前に開催案内を流すため）。

（2）でーれーBOOKS について

- ・全体の参加者は 34 人で昨年度より少し減った。
 - ・印刷代・通信費の一部を司書部会で負担してもらいたいとのお話が高教研学校図書館部会事務局からあった。ちらしは、学校の場合は各自で印刷できるが、主な配布先は書店や公共図書館。印刷した実物を渡さないとなかなか周知していただけない現状があるため、ちらしの枚数を減らすのは難しい。通信費を司書部会で負担し、印刷代は事務局に負担していただくのはどうか。新年度の司書部会で諮る。
 - ・ポスター・チラシ印刷は、ネット注文で、格安の料金。これ以上金額を落とすことは難しい。
 - ・ポスター・チラシの作成は、生徒を毎年募集。R7 年度から制作のスケジュールを変更し、時間的余裕を持って作る。依頼するための仕様書を作成中。
- ※留意点①ポスター・チラシ内に必ず入れる事項、あとから変更がある事項（書影やコメント等）を明記する。
- ②担当者も編集できるソフトでの作成か、制作開始前に確認する。
 - ③ノミネート決定後、書影を制作者に送り、背景との調整を行ってもらう。
 - ④担当者でコメントを流し込んだ後、担当者で制作両者で調整を行う。
 - ⑤最終校正の時期は入試業務と重なり、先生（美術）多忙のため、生徒との間に司書が入ることが多い。

司書にも知らせておく??

- ・正式名称は「岡山の高校図書館プレゼンツ でーれーBOOKS 2025」で統一する。
 - BOOKS（大文字）_（半角スペース）2025」
 - 「BOOKS」と年号は、使用するフォントによってバランス調整

(3) 学校図書館システムについて

- ・蔵書検索システムの利用実態に関する調査を実施し、結果をまとめた。この結果を SLA 会長と高校教育課の担当者へ送り、高校教育課から各所へ知らせていただく予定。

(4) 3 支部司書部会全体に関わる事柄について

●サポート校

- ・組み合わせ（案）（資料 3）
- ・質問しやすくするためには？
- ・サポート校をグループ chat で運用し、質問をしやすくする。（ML よりも小規模）
- ・chat 活用のために準備：①chat ルームを作っておく（「サポート校 A」「サポート校 B」のように）。→システム班で作成 ②開催案内（ML も）に「gmail のアカウントが無い人は事前に作っておいてください」と依頼する。ただし強制的に作らせることは避け、「chat グループで気軽に聞きたいかたのみ（任意）」というような書き方にしておく。
- ・これまでのサポート校制度のような 1 対 1 の形でなく、数人で共有することでトラブルを回避できる。
- ・サポートする司書がサポートを求める学校へ行く場合、派遣依頼文書の定型があるので、それをもとにサポートを求める学校に文書を作成してもらうという方法がある。これを周知する。

●基本情報アンケート

- ・R7 年度も紙での配布とする。
- ・調査項目について
LibFinder の HP アドレス・ID・PW を載せる（任意）ことについて→現在 HP アドレスを記入する欄を充てる。
アンケート自体が任意であるが、「任意」であることをあらためて明記しておく。

●第 1 回合同研修会に経年研がないことについて（遠方からの参加者の立場で）

- ・サポート校交流や顔合わせの時間があるので、初任研を受講しなくても参加する意味はあるが・・・
- ・午前の初任研の時間帯に、県立図書館が講座をすることは可能との提案あり（例えば著作権について等）

(7) 学校図書館活用教育研究委員会より

- ・HP の改良について検討し、来年度には改良を実施する予定。

(8) 県立図書館より

- ・合同研修会の案内文書は起案前に県立図書館にも確認をさせてほしい。「返却本があれば持ってきてください」等のお知らせをする文書を別紙で準備するので、合わせて送付していただきたい。
- ・7 月の研修会の時間割は、5 月中旬までに調整しておきたい。
- ・県立図書館からのアンケートを学校宛てに送付したので協力をお願いしたい。また来年度は搬送便担当者の確認のための調査を実施する。
- ・ティーンズコーナーの年度前半には学校の展示が集まりにくいので、活用研や読書推進班、各支部、図書委員会交流会などでコーナーの主旨に合った展示の企画をいただければありがたい。データのみ送付で展示は県立図書館に任せる、あるいは、展示しに行く等は相談可。第 1 回合同研修会の連絡で全体にも伝える。

(9) その他

・県主催の学校司書研修について（～2018年までで中断）（教育政策課から回答あり）

SLA 会長と SLA 司書部会長が県に再開の依頼をした。教育政策課の回答は以下の通り。

① 中断の経緯：確たる理由は不明だが、総合教育センター研修の見直しの中で廃止されたようだ。

② 今後の見通し：生涯学習課とも情報を共有しており、来年度以降の研修実施に向け、同課とも連携を進める。

・学校図書館部会事務局との連絡会議について

協議が必要なのは、ネット研の正式名称。言葉が重複し、大変長くなっているため。今後、全体で検討していく。

でーれーの予算については、「(2) でーれーBOOKS について」参照。

3 連絡

・ネット研代表 chat に、研修班からは、初任研・経年研から一人ずつが入り、円滑に計画が進むようにする。

4 閉会